

## 愛知県環境影響評価審査会衣浦港3号地廃棄物処分場部会会議録

### 1 日時

平成19年8月28日(火)  
午後2時から午後3時25分まで

### 2 場所

愛知県自治センター 5階 研修室

### 3 議事

- (1) 部会長及び部会長代理の選任について
- (2) 衣浦港3号地廃棄物最終処分場整備事業に係る環境影響評価準備書について
- (3) その他

### 4 出席者

#### (1) 委員

岩田委員(部会長)、梅村委員、北田委員、小池委員、清水委員、坂東委員、廣畠委員、柳澤委員、吉村委員(以上9名)

#### (2) 事務局(愛知県)

(環境部)山本技監、田村資源循環推進監

(環境活動推進課)河根課長、藤野主幹、近藤主任主査、平野主査、  
松尾主任、関本技師

(大気環境課)内藤主査、那須主任

(水地盤環境課)吉田主任

(自然環境課)磯谷主任

(資源循環推進課)杉本課長補佐、小野主任主査

#### (3) 事業者

(財団法人愛知臨海環境整備センター)

吉川常務理事、浅野課長、柴田課長、大矢課長補佐、  
豊田課長補佐、谷口主査、石原主査

### 5 傍聴人等

傍聴人3名、報道関係者なし

## 6 会議内容

### (1) 開会

### (2) 議事

#### ア 部会長及び部会長代理の選任について

- ・ 部会長について、小池委員から岩田委員の推挙があり、互選により選任された。また、岩田部会長の指名により、北田委員が部会長代理に選任された。

#### イ 衣浦港3号地廃棄物最終処分場整備事業に係る環境影響評価準備書について

- ・ 会議録の署名について岩田部会長が、清水委員と吉村委員を指名した。
- ・ 事務局より、資料「前回審査会(平成19年8月7日)における指摘事項及びその対応」について説明があった。

### < 質疑応答 >

【坂東委員】 前回審査会での指摘事項について、これらを指摘した委員の多くは部会委員ではないのでこの会議には出席されていないが、質問をされた委員方に説明等する予定はあるのか。

【事務局】 本日提示した部会資料を基に、本日の議論を踏まえて説明する予定である。

【柳澤委員】 クモ類の調査について、住民意見で指摘があり、事業者見解には「念のため補足的に調査を実施」とあった。この調査結果については、審査会等に報告されるのか。

【事務局】 クモ類の調査結果については、次回以降の部会で事業者に報告してもらう予定である。

【柳澤委員】 資料13ページの別添6の鳥類の調査時間について、日によって調査時間帯が大きく変動している。海面なので潮の干満や大きさによって時間帯を変えたのかもしれないが、なるべく時間帯をそろえてほしかった。8月23日という調査日については、鳥の夏季の調査及び渡りの時期の調査として適切とはいえないが、以前に実施された企業庁の調査と時期をそろえてあるので、比較のためにはこの時期になるのも致し方ないのかと思う。なお、シギ・チドリの渡りの時期としては、春は5月5日頃、秋は9月1日の前後1週間にピークとなるのが普通だと思う。

- 【事務局】 渡りについては、シギ・チドリに限らず他の鳥類も含めて全体として把握するという意味でこの時期に調査が行われたものではないかと考えている。
- 【事業者】 庄内川付近でのシギ・チドリの調査結果を見ると、4月20日、10月6日などでもある程度为数が確認されているので、8月23日の調査結果とあわせて見れば渡りのピーク時期ではないものの、傾向はつかめているのではないかと考えている。
- 【柳澤委員】 種類という点では、有効なデータは把握できていると思っている。
- 【小池委員】 埋立地の南側、CODについて、港の奥からの負荷の流入が減少するから水質濃度が低下することのことだが、流れ全体としてはどう変化するのか。埋立地の南側では流れが滞留しないのか。また、埋立地の影響で流れが滞留することにより、酸欠状態にはならないのかどうかを考慮されて予測されているのか。
- 【事務局】 資料編 239 ページ以降に流速分布が記載されているが、事業区域南側には武豊火力があり温排水が放出されること、上げ潮・下げ潮による流れがあることなどから、ずっと滞留しているということはなくある程度の流れがあるものと考えており、酸欠状態になるということはないと考えている。
- 【小池委員】 資料編 168 ページに水質調査結果があり、溶存酸素量がとても大きいように感じたが、環境基準値として2以上と書かれており、この基準は守られるものと考えていいのか。
- 【事務局】 衣浦港内の溶存酸素量については特に予測は行っていないが、流れや水質の変化の程度から今後もこの程度には保たれ、環境基準は守られるものと考えている。
- 【北田委員】 水質予測について、10～15mの第4層で行われているようだが、例えばCOD、T-Nなどについて水深別の予測や深さ方向の現況再現はなされているのか。
- 【事務局】 準備書 575 ページから 580 ページにあるように5層に分けて現況再現性が計算されているほか、589 ページ以降のように4層に分けて予測がされている。
- 【北田委員】 記載されている K-2 から A-14 までの観測点の中で事業実施区域に直近のポイントはどれか。
- 【事務局】 573 ページの地図にあるように K-3 が事業実施区域の直

近である。

- 【岩田部会長】 埋立護岸について、方法書の際に環境に配慮した護岸構造にすると聞いた記憶があるが、その計画はどうなっているのか。
- 【事務局】 準備書 16 ページにあるように「自然石を用いた捨石式傾斜堤構造」の護岸を計画しており、詳細については今後事業者が検討していく。
- 【柳澤委員】 準備書 691 ページ以降の記載について、些細なことだが気になることがあるので、あとで事務局に指摘のメモを渡したい。
- 【事務局】 記載内容について指摘していただいた事項については、事業者に評価書の中で修正していただく。
- 【柳澤委員】 コアジサシについて、現在は海面なのでこの場所では繁殖していないが、今後埋め立てていく中で、名古屋港南 5 区のように生息地あるいは繁殖地ができてしまう可能性があるが、その場合どのように対応するのか。
- 【事業者】 コアジサシの対応について、埋立を行っている箇所にはなるべくコアジサシが寄り付かないようにし、コアジサシが営巣しているところがあれば、現在の名古屋港南 5 区と同様に配慮していく。
- 【吉村委員】 水質の予測で、準備書の 553 から 555 ページを見ると、計算値と観測値が大きく異なるところもあるが、「再現性は良好」あるいは「潮流の特徴を適切に再現」とした理由を説明してほしい。
- 【事務局】 確かに一致していないポイントもあるが、予測モデルが三河湾全体として再現できているという評価である。なお、準備書には記載されていないが、計算値と観測値との相関係数は 0.8 程度と聞いている。
- 【岩田部会長】 境界条件等もあり、現在の計算技術では 100% 一致させるのは困難と思う。相関係数については 85 以上あるのが望ましいが、個人的には 80 あれば問題はないと思う。
- 【北田委員】 地点 K-3 も事業実施区域から少し離れている感じがするので、県の観測データだけでなく、もっと埋立予定地に近いポイント、予測により淀む可能性があると考えたポイントでモニタリングしてはどうか。
- 【事務局】 審査会からのご意見として、事後の環境監視について意

見をいただければと考えているが、準備書 795 ページにあるように今後事業者は武豊町の意見を聴いて環境監視を行うとしている。

【坂東委員】 汚濁防止膜は上からのもの(垂下型)と下からのもの(自立型)の併用となっているが、これは一般的な工法なのか。また、深さに対して半分ずつぐらいのものを設置すると考えればいいのか。

【事務局】 汚濁防止膜の垂下型と自立型を併用することは一般的なものであり、設置方法としては、準備書 638 ページにあるように上下から概ね半分ずつ設置する予定である。

【坂東委員】 DO(溶存酸素量)について、海水としてはかなり高い値だと感じた。その理由がわかれば教えていただきたい。

【事務局】 確認をして、次回ご報告したい。

【柳澤委員】 生態系について、準備書 741 ページの食物連鎖図において、高次消費者として海域の「カワウやミサゴ」など記載されているが、もう少し下位ではないのかと思う。また、スズガモは貝なども食べる雑食であり、魚食のカワウと同程度の位置ではないかと思う。陸域のトビ・モズはもう少し下に、ハヤブサは 80% 以上鳥食なので一番高い位置になるかと思う。740 ページの表の記載とあわせ、もう少し整理し直してほしい。

【事務局】 事業者には評価書の段階で整理していただく。

【岩田部会長】 意見も出尽くしたようであるので、今までに出た指摘について、事務局で整理していただきたい。

ウ その他

・特にない旨、事務局が発言した。

(3) 閉会